

製品名: Cdc42EP5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08522**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC42EP5
別名	CDC42EP5; BORG3; CEP5; Cdc42 effector protein 5; Binder of Rho GTPases 3
遺伝子 ID	148170.0
SwissProt ID	Q6NZY7
免疫原	抗血清はヒト BORG3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

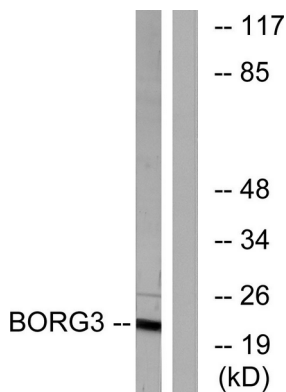
細胞分裂制御タンパク質 42 (CDC42) は、小型の Rho GTPase であり、下流のエフェクタータンパク質との相互作用を通じて、F-アクチンを含む構造の形成を制御します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、CDC42 エフェクタータンパク質の

Borg (Rho GTPase の結合因子) ファミリーのメンバーです。Borg ファミリータンパク質は CRIB (Cdc42/Rac 相互作用結合) ドメインを含み、CDC42 に結合してその機能を負に制御します。コードされているタンパク質は、CDC42 の結合とは独立して、c-Jun N 末端キナーゼ (JNK) を阻害する可能性があります。このタンパク質は、線維芽細胞におけるセプチンの組織化と偽足形成の誘導にも関与している可能性があります [RefSeq 提供、2013 年 7 月]。ドメイン: CRIB ドメインは CDC42 との相互作用を媒介します。機能: おそらくアクチン細胞骨格の組織化に関与しています。CDC42 の下流に作用し、アクチンフィラメントの集合を誘導して細胞形態変化を引き起こす可能性がある。線維芽細胞において仮足形成を誘導する。CDC42 の結合とは独立して MAPK8 を阻害する。セプチンの組織化を制御し、この効果は CDC42 によって負に制御される。類似性: BORG/CEP ファミリーに属する。類似性: 1 つの CRIB ドメインを含む。サブユニット: GTP 依存的に CDC42 および SEPT7 と相互作用する。、

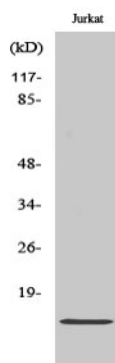
研究分野

-

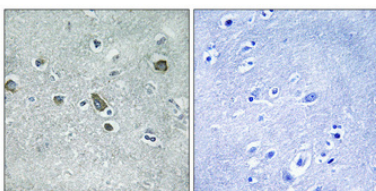
画像データ



BORG3 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Cdc42EP5 ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。